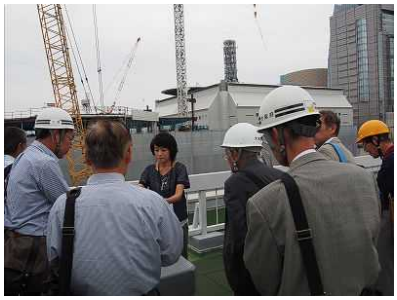
(Q) １ヵ月後に被災者がもっとも多くなっているのはなぜか。
(A) ライフライン特に水道の復旧が遅れることによる在宅避難者も算定することによる。
(Q) 人的被害の想定は、内閣府では１万人未満であるのに府は 10 倍以上と大きいのはなぜか。
(A) 津波被害の想定が大きく異なっているためである。
なお、大阪府の防災対策については、説明が割愛されたが、「大阪府地域防災計画」「新・大阪府地域防災アクションプラン」に関する貴重な資料が配布された。

4. 大阪府庁周辺整備状況



これ以降は、総務部庁舎周辺整備課担当者により説明を受けた。はじめに、府庁別館屋上から、大阪府成人病センターの整備状況、大阪第６地方合同庁舎整備計画、大阪府庁本館耐震改修工事の概要説明を受けた。その後、2 班に分かれて、本館の「耐震工事現場」及び「正庁の間」を視察した。

5. 大阪府庁本館耐震改修工事現場

現在の大阪府庁は 1926 年 10 月に完成しており、鉄筋コンクリート構造を積極的に導入したモダニズム建築の先駆けとなっている。中央ホールは 3 階までの吹抜となっており、イタリア産の大理石の階段が 2 階まで続いており、映画やドラマのロケなどに使われている。

改修工事は、執務を行いながら、執務エリアと工事エリアを切り回しながら進められている。はじめに１階部分の耐震壁、次に地下の免震装置や基礎杭の施工状況を視察した。平成 28 年度には、歴史的・文化的価値の高い東館全体を耐震補強（基礎免震＋耐震壁により Is 値 0.9 相当確保）、平成 29 年度には、西館を撤去し改修工事を完了する予定である。

6. 大阪府庁本館「正庁の間」

正庁の間は、かつて年末年始の行事や人事発令などの式典に使用されていた部屋で、5,6 階の 2 層吹抜の空間である。近年は執務室として使用されていたが、内部の劣化も進んでいたことから、平成 23 年に竣工当時に近い姿に復元改修を行われている。大正時代を彷彿させる壮麗な装飾レリーフが全面に施され、天井（3 面構成 55 ㎡）や東窓（3 箇所）のステンドグラスからの光が彩りを添えている。正庁の間において、技術士会と大阪府の担当者で本館耐震改修工事や正庁の間等について熱心な質疑を行った。

7. 謝辞

今回の見学会のお世話及び説明をいただきました大阪府危機管理室、総務部庁舎周辺整備課の皆様に御礼申し上げます。

（文責：藪内生死）